

(学校用)

様式 A-1

平成29年1月24日

サイエンス・ダイアログ 実施報告書

1. 学校名・担当者氏名: 岐阜県立恵那高等学校 佐々木俊哉(理), 山本雅人(英), 高橋亜由子(英)

2. 講師氏名: Gabriele TOLA 博士 (Mr.)

3. 同行者氏名: なし

4. 実施日時: 平成29年1月17日 (火) 13:45 ~ 15:25

5. 参加生徒: 2年生 34人、 1年生 0人、 0年生 0人 (合計 34人)
備考: (例:理数科の生徒) 理数科の生徒

6. 講演題目: (英文) The study of foreign languages: an open door to the world

(和文)

7. 講演概要:

言語学を含む社会科学はサイエンスである, という説明に始まり, 漢字文化圏において, 西洋科学, 特に言語とその概念がどのように東洋の文化圏に導入からされ, 訳語が定着していくのか, その道程について非常に興味深い実例を用いて解説いただきました。ご自身がこの研究を始めたきっかけや, 母国の生活, 研究者としての生活も交えたお話を分かりやすい英語でお話いただきました。

8. 使用言語: 英語

9. 講演形式:

(1) 講演時間 40 分 質疑応答時間 10 分

(2) 講演方法 (例: プロジェクター使用による講演、実験・実習の有無など)
プロジェクターによる講演

(3) 通訳 (例: 同行者によるサポート、外国人研究者本人による日本語説明)
外国人研究者本人による日本語解説(必要最小限でした)

(4) 事前学習時使用教材(事前学習を行った場合のみ)

研究者本人によるアブストラクトを資料化したものを配布

10. 学校からの支給経費(該当がある場合): 交通費 宿泊費 謝金

11. その他特筆すべき事項:

- ・講演後, 講師の先生に対し, 本校生徒による課題研究の英語プレゼンテーションを実施。
8グループ, 各3分。先生から質問いただき, 英語, 日本語を交えて質疑応答を行いました。